

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ふじみがおかちゅうがくこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
27～31	①学校名	富士見丘中学高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	併設型中高一貫校	
普通科	100人	30人	30人		160人	高校…343人・普通科11学級	
						中学校…87人・6学級	
⑥研究開発 構想名	サステナビリティから創造するグローバル社会						
⑦研究開発 の概要	連携する大学・企業の協力のもと、教科横断型の探求学習「サステナビリティ基礎」 「サステナビリティ演習Ⅰ・Ⅱ」を開発する。また、研究の基盤となる力を身につける 「スタディスキル向上プログラム」と「行動力の向上プログラム」、海外への発信・ 対話力を高める「英語発信力の向上プログラム」も併せて開発する。						
⑧研究 開発 の 内容 等	⑧ -1 全体	(1) 目的・目標					
		<p>今日まで本校が推し進めてきたグローバルスタディプログラムと環境教育を融合・発展させ、サステナビリティに関する課題研究と世界との交流を目指した教育プログラムを構築する。グローバル社会でリーダーシップのとれる生徒を育成すべく、生徒とともに教職員、学校全体がイノベーションを行うのが本プログラムの目的である。この目的を果たすため、以下の3項目を今後の教育目標とする。</p> <p>A サステナビリティに対する興味関心・問題意識を高める。</p> <p>B 課題を解決するためのスタディスキル・行動力を高める。</p> <p>C 英語でのコミュニケーション能力・情報発信力を高める。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>本校では地球環境に配慮した校舎のもと、学校生活の様々な場面で環境・エネルギー問題への関心・問題意識を喚起するムードをつくってきたが、現状では、生徒の関心が本格的な探求活動に結びつくまでには至っていない。総合的な学習「自主研究5×2」も生徒の自主性に任せる部分が大きく、問題の発見や分析の育成を行う指導法の確立が必要である。これまで英語教育・国際交流プログラムの充実に努めてきたが、海外の高校生・学生とグローバルイシューについて議論し、情報発信を行う生徒を増やすためには、英語での情報発信力のさらなる強化が必要である。よって、以下の仮説を設定する。</p> <p>A 大学・企業との連携により、サステナビリティに関する社会課題を研究する教科横断型の探求型授業を開発し、生徒のグローバルイシューへの関心・問題意識を高める。</p> <p>B 大学の研究者の支援により課題研究のための問題発見・分析・解決の指導法を確立するとともに、研究の基盤となる「スタディスキル」や「行動力」を向上させるプログラムを開発することで、生徒の問題解決能力を向上させる。</p> <p>C 英語の教育プログラムをさらに充実させ、サステナビリティについて海外の高校生や専門家と交流・情報交換できる生徒を増加させる。</p>					
		(3) 成果の普及					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校WEBサイト（英語版を含む）に専用ページを設け、継続的な実践報告を行う。</li> <li>SGHサイトで本校の活動状況を毎月報告する。</li> <li>全国中等教育研究集会、21世紀型教育を創る会等で研究成果を発表する。</li> <li>毎年、3月に研究成果発表会を行う。</li> <li>他のSGH校と連携し、合同シンポジウムを開催する。</li> </ul>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容        サステナビリティの観点から「災害と地域社会」「開発経済と人間」「環境とライフスタイル」という3つのテーマについて課題研究を行う。「災害と地域社会」では、震災が地域社会に与えた影響、アジア各地の災害と復興、防災と社会生活など、「開発経済と人間」では、シンガポールと日本との経済発展の比較、経済発展が人間の心性に与える影響、今後の経済発展・開発のあり方など、「環境とライフスタイル」では、地球環境問題と日常生活、低炭素社会への取組み、スマートな生活環境などが具体的なテーマとなる。これらの研究の成果は海外に発信していく。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価        ○サステナビリティ基礎（1年生必修）        総合的な学習の時間に2単位の授業を設置する。サステナビリティの観点から社会課題を多面的に学び、主に災害・開発経済・地球環境という3分野について探求学習を行う。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の大川恵子教授には、授業デザイン全体に助言をいただき、フィールド分析と問題発見・分析・解決法を扱うワークショップの実施、ループリックなど評価法の共同開発を行っていただく。それぞれのテーマを専門とする大学の研究者や企業・NPO関係者の特別授業も、各月に実施する。岩手県釜石市で行うフィールドワークには、1年生全員が参加し、シンガポールなどで行われる「グローバルユースサミット」には、希望者10名（高校2年生を含む）が参加する。授業・フィールドワークをもとに行った研究は学年末にレポートとしてまとめ、ループリックを用いて生徒の自己評価・相互評価、教員の評価を行う。3月の研究発表会で大学の研究者および運営指導委員による外部評価を行う。</p> <p>○サステナビリティ演習Ⅰ・Ⅱ（2・3年生選択必修）        2・3学年の選択科目として2単位の授業を設置する。各学年で30名が「災害と地域社会」「開発経済と人間」「環境とライフスタイル」の3つのゼミに分かれ、より専門的な課題研究を行う。大学教員が主導する授業で、本校の教員と研究室の学生・大学院生が研究をサポートする。それぞれのゼミで、フィリピン、シンガポール、マスタードシティ（UAE）での海外フィールドワークを実施するほか、デジタルコミュニケーション基盤により海外の高校生との遠隔ワークショップを行う。3年生は、2年生の研究を指導するとともに、自身の研究は英語でまとめ、Green Schools Allianceのネットワーク等を通じて海外に発信する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等        なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価        課題研究や海外への発信の基盤となる力を養うため、以下の3つのスキルアップ・プログラムの研究開発を行う。</p> <p>(ア) 行動力の向上プログラム…エコ・アクティビティとツアー・ボランティア        (イ) 英語発信力の向上プログラム…英文レポート作成、Discussion等の講座の新設        (ウ) スタディスキルの向上プログラム…IB等の指導法を研究し、体系化</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等        なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法        ・留学プログラム・国際交流のさらなる充実        ・帰国・外国人生徒の積極的な受け入れ体制の整備        ・海外大学進学情報の充実</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成26年度は、スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校として、大学・企業と連携した特別授業の実施、「サステナビリティ基礎」のシラバス作成を推進。</p> <p>平成27年度は、筑波大学SGHプログラムが進めるグローバルマインドセット、グローバルコンピテンシーの測定尺度の開発にも協力を行っていく。</p>